

## 補償部門

補償部では、公共事業の施行による土地取得に伴う建物などの移転工法の検討、予備調査および補償金額算定、補償説明業務などのコンサルティングを主業務としており、平成18年度においても建物などの調査・算定はもとより、敷地使用実態調査、移転工法の検討、工損(事業の施工により発生する騒音、振動、水枯渴、地盤変動など)の調査や、これらに付随する業務を行っています。また、一級建築士事務所として、建築物の設計・監理なども行っています。

当社は、社団法人日本補償コンサルタント協会員として、補償業務管理士(者)、一・二級建築士、林業技師など、豊富な知識と経験を有する多くの人材を確保しています。

日々の業務を通して「発注者が期待するニーズ」に応えるように、その実現に向けて日々研鑽を重ねています。

また、かねてより社内でも検討してきました「木造・非木造建物の算定システム」を導入する予定です。このシステムの活用により『迅速』で、さらに算定内容などの「わかりやすさ」という要求にも応えていくよう努めてまいります。



輪尺による立木測定



工事振動による亀裂測定

## 調査設計部門

昨年のオホーツク地域は、大自然の猛威に晒された年でした。8月・10月の大雨に始まり、当地域では前例のない竜巻や津波騒動など、これらは自然災害という形で、地域住民のライフラインに多大な被害を及ぼしました。

10月の低気圧による大雨災害では、網走管内全域の河川に被害がおよび、道路では山間部の道道・市町村道を始め、国道では333号の北見市北陽から佐呂間町栃木にかけて道路が決壊するなどの大きな被害を受けました。また、佐呂間町では日本観測史上最大といわれる竜巻が発生し、9名の死者と多数の負傷者を出しました。

濁流の荒れ狂う川、崩れた道路、倒壊した建物など、自然の猛威と悲惨な状況を目のあたりにし、土木に携わる者として、防災意識の重要性を改めて痛感させられました。

当社は、網走管内に拠点を持つ会社として、これまでも災害復旧の調査設計に深く関わってきました。今回の災害では、刻々と変わる状況に合わせた緊急性に対応すべく、柔軟な業務体制の配備をすると共に、管外の関係企業からも多数の応援を得て、対応いたしました。また、通



網走川上流(津別町)



国道333号 北見市北陽(2枚とも)



常業務においては、多大なる御配慮をいただいた各発注機関の皆様へ深く感謝申し上げますと共に、この経験を生かし、更に地域や社会のニーズに応えられるよう心掛けていきたいと思っております。

### 主な災害対応

#### 北海道開発局網走開発建設部

- ・一般国道39号・333号道路災害調査設計
- ・網走川外水位観測及び巡視
- ・湧別川河川災害調査
- ・網走道路事務所管内緊急橋梁点検

#### 北海道網走土木現業所

- ・紋別丸瀬布線外道路災害調査設計

#### 津別町

- ・路の沢川外災害調査設計
- ・簡易水道送配水管災害調査設計



竜巻被災後の現場 / 提供: (株) シン技術コンサル